



〔西溜の間〕の写真(78頁参照)には、部屋の中央辺りで外向きにソファを円形に配置し、ソファとの間に背の高い置物台を立て、その上にこの花盛器を設置している様子が写されている。花盛器の数は全部で6点である。金沢銅器会社は明治前期に輸出向けにすぐれた金工作品を制作していた。

唐花唐草文象嵌花盛器 金沢銅器会社 明治24年(1891) 1点 銅・象嵌、彫金 径60.5 高28.5



〔西溜の間〕室内 大正11年4月撮影

来日された英国皇太子(後のエドワード8世)の接遇のための飾り付け、家具配置を記録したもの。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

幻の室内装飾 ―明治宮殿の再現を試みる

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 56

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十三年九月二十三日発行

© 2011 The Museum of the Imperial Collections